



横浜市立富岡小学校

学校だより5月号



あいさつを通した素敵な出会い

～富岡小学校であいさつのシャワーを受けています～

校長 黒木 英晴

昇降口の壁には、「あー明るく」「いーいつも」「さー先に」「つー伝える」と書かれた掲示物があります。富岡小学校の自慢の一つであるあいさつをこの一か月たくさん浴びてそのことを実感しました。子どもたちは、廊下を歩いている私に、いつも、明るく、先に「おはようございます」「こんにちは」などあいさつをしてくれます。朝、横断歩道に立っている時、帰りに見守り隊のみなさんにもしっかりとあいさつをしています。先日は、京急富岡駅への帰宅途中、わざわざ車をとめて窓を開けてあいさつをしてくれた1年生がいました。思わずハイタッチ！こんなうれしいことはありません。あいさつが地域にも広がっているのです。あいさつは、人と人がつながる大事な言葉です。相手は自分のことを知っている、生きていくということはどういうことなんだと思います。このひと月、あいさつができる富小の子どもたちと出会い、とても幸せな気持ちで過ごしています。

心理学者のアドラーは、「人間は生物的に見ても『社会』を必要とする存在だ。成熟に達するまでに他者に依存しなければいけない期間は、他の動物に比べてはるかに長い。種としての人間が生き延びるための条件である高度な協力と社会文化は『自ら社会とつながる努力』を必要とする。したかつて、『教育』の主な目的は、その『自ら社会とつながる努力』を促すことである」として「社会とつながる努力を」と伝えている。（『アドラーの言葉』（アルフレッド・アドラー著 岩井俊憲編訳 ディスカヴァー社）より）このことを意味するところは、私たちは一人では決して生きていけないということだと思います。社会とかかわりながら人生に大きな試練がふりかかってきたとしても、人とかわることでその解決方法を見出すことができるのではないかと考えています。

4月19日には1年生を迎える会が行われました。「富小ダイアリー」にも紹介されていますが、1年生の子どもたちは、富小の一員としての自覚をもったのではないかと思います。その1年生を迎える在校生の工夫を凝らした歓迎のパフォーマンスはとても素敵でした。司会を担当したセンター委員会の6年生もとても素晴らしかったです。毎日1年生をサポートしていただいた「エプロン隊」の皆様にも、心より深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

さて、ゴールデンウィークが明日からスタートします。3連休、4連休と続きますが、ぜひこのお休みを有意義に過ごしていただければと思います。あわせて、くれぐれも事故や事件に巻き込まれることがないようにお子様の健康や安全に十分にご留意いただければと思います。また、金銭授受や公園等の公共施設などのマナーやルールなどにもご留意いただければと思います。

ゴールデンウィークが明けるといよいよ運動会の練習も本格的になると思います。どんな運動会なのかとても楽しみにしています。子どもたちへの温かい声かけもよろしくお願ひします。5月も保護者の皆様、地域の皆様のご理解とご協力をどうぞよろしくお願ひいたします。



『富小ダイアリー』は、富岡小ホームページから。左のQRコードを読み取ると、富小HPへ移動します。